特別
へ5
4893

京都帝国大学図書之印

大坂獨吟集

西山宗因批判
十百句

上巻

幾音
亮玄
三昌
意樂
嘉永

下巻

由平
同
未学
悦春
重安

へ
門
號
4893
番

昭和二七
三月十七
購求

獨吟

寛文十三癸丑年

四月吉日

幾音

武士といへども世やいつ世の
春屋のうめ　えだうつしの年とかぞへ
春柳も屋うちをうむん　芽の手しるひさしの彩
其一出をかくるの風
きわまって價千金月の新
月雪花のけしき一層わくるし　ちるうけるより風流
打打もうつや禮乃樞の旨　かくしところ

蘇鉄ます里は浅茅生の宿
月雪後も思ひ出もよ杉墨そ
大ユつひや梅乃花くわ
盛めは桂川さて見る色
姫ゝ行回も梅るたち
のわかる袖のぬふわを見る熟
たゝこのけふわむ百のを
梅のさよ雪方のるる機会
芝居もそて秋さひ
むの紅うんせぬ恋ありけり
すの新名わ白もあわ路の月

紅葉ようち回ひぬる西れ元
うこのき結へ人くいつまも
花をふんて白梅やはまま
梅の立枝よこくるれふん
家宿の第もんやすむん
あわとはうんて梅の天ろ
出て梅ふわ乃ようれ
のもつ花ろてして月ろの紅
山桜や月ろ井よあゝん
ゝゝ舞のまゝ紅きわ
巾ろて大豆の新世る

南浦をうるまをめぐる
鐵砲のせんぬあるをきかせこゝ
ぬるゝまてたてらとおもへ
ひるまれのあやせるよ計の松
婦うかををしろ赤い〳〵
えいやえいと魚多武家たら

蒔にをつくくるよりもるか
いろせんやるをもゆる我ひ
扶ふ一点風大ほけりけり
急よあもつふるおごわや
月夜小つもはふるま

ふるこの初ねるハ伝達ハ地蓮
たくくた戦の者とある川
ゆあて起ぬまり道のよ
まくくのゆめもやふれ多蓮
小つるの銭鶴は水あ
しまもめくる部三庵海中
十四日又日の晴月高て
大しかせそるる形
ちわくやちつる花の波
蓮風海の潮乃あくの
山姫やのこれる高氏繰仕す

立田の初くハ[illegible]ところ
[illegible]のようにやわらかなるふくらかて入ぬん
猿丸たゆまきく藤の紫
判官のまるこさやうに月みて
たまうくけ
すくめやせてあ[illegible]
[illegible]
小袖衣物もき[illegible]氣の御ものと
鍾馗のせいうゆめうつう
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なうう[illegible]とうるかの凡
芭蕉[illegible]
三ウ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

たつときも関屋つもれるよ来て

あるひ猿楽くの舞

猿くれるあそび猿のまねし

まそりの時よりてセロうのくもやうよ

[illegible]

名

うせ不第我衰よたたもこの

書あるよまのうの関の猿つひ

滝つせやいろくはいの源川

岩まれ庵よたたうとあこう

奥ふよ梅を狸のそつこ

東西くさるさけの物

[illegible]

仮燒すてうまくの星

綺槍戦中井れ行よ高橋

ゆめもちをのつる仕えるやん

はよれ知もむさ学ハ宝橋ふて

ねつきハいまくさきぬそうわ

夕月和顔のまけり照もらん

けぬまくるぬ独の桜

ハくくるも家なら花嵐

ウ

ふれるる身もうやまく

いくくるひのくれ春

鞍遠まて意れまのさのり越て

うけうもさやかなる国の戸
をとろのをの鶏やたをさやま
いかとろく鶏やたをさやま
さそもさして　る河傍清さき
きくまやあまそ　氏なのの取敷氏なるあ
吳服もあひくはしのろし

愚墨子十二句　長井九

雪嵩判

鼎興かもあ〻姫う
こていうしようすきうけて
あつくひるく仏よおいてハ
ゆつをくもやとろうそ
あのわきわ

春雲

梅よりわ嵐や花の片見歌
信のとくくとあひくあうえ
うつき食剛山のむ〻思やきて
ゆうあつき二つとめあまるそ
三つめあ〻ひよ食のかし
秋ふるあつくもくみよ月
涼すくきいて味ふ新
ゆやうまおいてひうあるきて
富たつまてとくすひ〻夜
旅の元月八まるふるつのひ秋
わくこのあをおさよ生すまひ

[illegible]

歌の師匠をとるやうなる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いくたりの藏人の指図をこもうみ
ものすけたまはるとあむもうんせる
[illegible]すきの[illegible]の下まても
[illegible]
[illegible]
小[illegible]
うつわもの[illegible]
いとの[illegible]
[illegible]
[illegible]
やくしの反化[illegible]
[illegible]

三ウ
みあるいはもとうれぬる橋人
たのもしひてうむ作[illegible]姫
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひ暮へく秋はあはれなる哉

夜月うかれてはなちてけり

神まつの花見風やうるん

かすむ塩垣離別もふれて

名

苔白とみ無ふ初るちるふ

みちのくにこゆるまこと

嘆ぶかよ初よりふ尾濃うく

燒元の燒を打つく蛍

みちのくの一字

月のかのとてまきぬ塩月

たうとさも同やめ仏なう

十二方まこと浄土すこ云

初月待の光ぬ遍照あ尼

初うわまるのふたるふ

東山は位高人のあるる脇

前後よりんゆるまの物の数

能衣裳れの村うりう

来ぬまこまるまう

月こうく三舞ちまさて落まふ

伝例とかねぶたれてれ寄て

むのまへくる書院ふ秋

ウ

月入こいろはよわへとまこと

立花立花のまるやうん

さうぬのこ屋のまる百姫月

秋まこへのよくまうこ

[illegible]

[illegible]

愚墨会年九句　長井八

[illegible]

[illegible]

入老眼あ[illegible]

ぬきんでてそのさ[illegible]

西梅花翁

三昌

西山のいあるかけよ
猿さ[illegible]
もなのの事成

かから猿[illegible]
[illegible]
春の月や名[illegible]
さ[illegible]
なまり奥の[illegible]
[illegible]

扇さきや祇園ぶくまつ
矢つ石堀よりなく蓮の物
ウ
秋の田もまくそこよ百石
されて湯製もうむ廻永
浦切よ上代風てまひら
廻永ぬ
もの毎ろきき浦ヲの風
赤花よ爭衆れ見のもろ
數ちひ一本れの下作
線香の烟船あ山
澄のしら股やい白作り
ろ迫よ志ろ村元

月をのせやうるうみ
屋ろや貨物よ河ろ
ろつくらやうへのまち人
外貝新ゆひさ
白ゆも身体おろく
雲のちろてまつ
ニ
ひつろて名ふ井ゆ
よさろ系ろ
鷲の尾 長井 行畏の畫
ろてき
井ゆ松ちうろ山の眞
杉もの彩の山ロと
たくいまう芝長
出縄のろ山ろ

猿のまねとさやうは月文て
いきてたてくらくらの別紙
あうはさ一字はれ春やさまん
ゑ時てい乱むむ（一字欠の為れ時はけん）ゆ春ちて物屋町
そうさんとゆのちて物屋町
ゑつまひつる弓矢八幡
家まみたるち計の初こ山（弓力の望く）
三月文日たてりと初ちへ（遊ちこれ）
二ウ
宮礼のすまやまに成すん
鬼つまあくれ宮の初
一ちの針のえんより高賢

出る月影やうつる天秤
蟹蛤の命惜くらの蓋ませい（青の宮ちてかく）
紙おて城を梅の下春
大石のうちて月よ来塔
ざいわ初てちの白ちち
うつきれ弥そあのせの紙
ゑちやく人年寿のそこ（形きこ）
堤まや紙の柄よなぬん（形きこ）
折のさき風のけ波のま
ゑ春を踏てい初ちまふ
ゑ風ち彩猫よ白ん梅ち香

春のよ[illegible]金十分一
月をいつくまで[illegible]
かりうへてきちかの親の形見
みくるれよりあ毎[illegible]
ねちまへ[illegible]きうこふまちられて
うるし[illegible]風[illegible]
こよりは[illegible]を[illegible]結すき
[illegible]すする姉とせの山
[illegible]たつ[illegible]
行[illegible]
倫[illegible]

双六乃さいてつちはくるう
おり待のよりよ湯のたい
[illegible]戸[illegible]ひく毎曲
[illegible]
諸り毒の[illegible]
[illegible]の風
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世中はてもなくてもうの世なるみ
あまれぬふしのさうかいく
引はなさしまてのわる新酒え
月を行雲のようく新うく役
いろ〳〵ぬれの相やゆまるの人
時雨れ雨や白きうきみうの
ウ 雪うつき空ものきせのあるひ
あたらしまひ化粧たうう
かすういも相のるタ雨し
白波落ち相のまん中
紫のあよ釣瓶の縄をうつし

ふわふわ蜻蛉うお傍屋元
濡まいうすてよ伊勢百姿れて
さいふよ入れ鈴うけの松
枝面まありせてきけハ蛙の声
涼なて海うの白毎の色
生いたる行ろ味噌のとけて
たのしみ〳〵さうしかるあわ
二月まて脚を枕のそ影の月
蛙うう〳〵気もこの秋さうわ
ウ 二月の空詩像し
うさよ仕度世の邪よ詩像ふ
入日こうるく鼻紙のう

さ[illegible]枝より[illegible]陰[illegible]
[illegible]ゆるしたるもとより[illegible]
[illegible]ハ[illegible]付て
[illegible]門[illegible]らん
[illegible]の[illegible]
[illegible]仏[illegible]

愚墨五十三首　長北二

からハ猿尾ハ　梅翁判
猛[illegible]虎の
いきをひあるもられ
[illegible]をおろれさんや

鼻ハ狐延ハ猿をうらみ
余命なき服のそよ指を折
[illegible]
と結ぶ[illegible]
[illegible]て[illegible]年を
[illegible]の楽と
[illegible]
[illegible]

意楽

十とといひて[illegible]つの時あくまで[illegible]
[illegible]日のやく義盤の上
[illegible]何程と[illegible]
[illegible]

遊勝のすそより雨ひ山つき
給ひ[illegible]くこそやり物語所
百姓のかくのものの月とのせて
塩屋氏一家の[illegible]雅氏極義
ウ
夕雲ハ浦遠き物のて浦遠
[illegible]ぬあしハ船物
蓋酒のこと蓋酒ハ会[illegible]
市立さけく中の同くハせ
[illegible]ぬる盗人ハ乞妹と宵と
義[illegible]氏里よ箕恒うし
白女や梅[illegible]ちうき見ゆき

[illegible]かすもるゆくまく
[illegible]ゆ浦なる船二人
きのふもうの[illegible]けけ
[illegible]度を告る使ハ遅くに
[illegible]
[illegible]ものよるてゆうせ
[illegible]の富よ船神ハ力の富
[illegible]すある江戸の川口
二
[illegible]風よ立まし風物ぞうん
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

歳まつ長人長町より拾町
ばかりつまるる大ちゃ城宜
果敢なつきよりの長今
再りよ成ぬもちろも出来ぬ
嘗屋をはくやうくよ住ちて
下このあわさ屋くやくし
関安よの居るよりわ持のり
たられまりをやらど
私仮屋戸のつよけてしき
撰ちるよりよ為無を流れ
月新も過り長ものるまのいわ
仮剣のかまこ神ま乗て前
二ウ
草の家風呂ふわ志やわ家れ

男ようこ代いそく取ちら
布屋撰る取ハ家と金和心
あまて新弱城つるく打板
屋体こ為ちもちき風流
特場の代代これまそたこそ
ちこ口けこ日けての縁り
書茶よる人紙判
堤よもんこけ鶴ち
ちこうひもるき初丁の汁
偉仮まの下御屋仮て月の
家をとちろ和屋代ちこ和ちこ

[illegible]紀伊の[illegible]
きつぶちの[illegible]と[illegible]
三
まの風ちら[illegible]
[illegible]
[illegible]の月入てあとかき[illegible]の
[illegible]らくこ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]るかやうにぬれん
物かなとあるひとの戸ぢまさせ
さひかものの月さへ国さ浮世
[illegible]の[illegible]いやてもとかても
秋風さあるさ時さて縁のあ
[illegible]の枝葉の[illegible]れ
[illegible]
[illegible]の[illegible]月[illegible]の[illegible]
[illegible]つとふく月[illegible]
[illegible]月うきさ[illegible]おなく[illegible]人
[illegible]れたわか十二[illegible]

[illegible]九国乃うつ[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]式百[illegible]
[illegible]の不[illegible]
[illegible]おかの湯屋
[illegible]人のいとつり[illegible]
[illegible]の[illegible]月
[illegible]も時をぬて
[illegible]ゆるさねば
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝきりふるひまもなしたつき

橋くさくさ[illegible]ぬの旅こゝろも

知立そゝゝの　同和一服

文月やゑえ[illegible]ようよてすん

きんうあくまよ[illegible]の秀

ウ

鯉もゝかぬ[illegible]秋ふて

こゝゝ[illegible]よ　へれの　ま

よき商人[illegible]

うひかつく命のこゝ[illegible]

[illegible]ゆめさまれ山

菊川の[illegible]と[illegible]

住きぬの[illegible]風

[illegible]月初の[illegible]

[illegible]　二十八[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹の[illegible]の竈

[illegible]人の[illegible]月[illegible]て

[illegible]れて[illegible]秋

[illegible]世[illegible]

二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たちもとの里に手習てとく
手跡もたしなまるかとふ
二月もとわたし白川の関
（実平の先きとと義経都にて）
義経をへあうんと先よ義経
かへ入島やの月にあたりて
うゝれめも十七八の姿月
初雪をいのるうたゝ
さゝき殿げに頼より彩やり
風景の彩をうへるる
行灯のひかりはそのそ
ありさけ入道のそうくる

うゝ此物も法師さまれ
みつくさはく世界の下
聖人あるいは西やうえ
まやりて御所の天月
（おきさきやうくゆるる月）
うゝきよりくゝきまゝ月
うんつ御まくらの辺
たつるいま金花瓶物とろきて
そのあつきまゝ
此屋う京立法のあれ
上戸も下戸もそけ物もし
男の代ハ宿所の酒も酌て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

擬吟

きさめを誘ふ春雨の面
うつ〳〵ねとしてうはさの
うんといひもあへぬ美人
腐うわ見をそしりとタ
ゆくこの不とところわるる
たちまち者ハ蔵る画のかさ
乃白川よりはあらて
波の石つるたのあてこうく
おもひよわぬ

舟夕子
由平

鼻のあかやれくる新屋のく
蛙も深やそ新らしくそ
外月こすくすわくきし露
花色の先くわ秋の夏それて

花ゆく雁をうつもの乳の糸
えんのまゆの時そこの月も京
（春ゆくの糸めいて）
ゆくさやうかるわれの秋
おもかそのわれしや秋のかを
其の不二魚魚鱗のうるちう
（魚鱗ゆんちう）
ウ
火こおろの其るもも秋をうく合れ
（秋のうるひもこれおよもも）
いま人倫よ恋ゆ氣をつそう
（つそうれるま世の秋のこそ）
だいくもうけるき世よ月をうけて
ゆそ年の先ようく新秋風
其をそ秋のこまろか和ほうんせよ
（よき和わうそれ）
月をそもいて老ひうろる

つきあひも時きゆ秋の移
様くゆう斬ゆるる秋の新風
ゆのぬきは年世移ゆもちぬん
（梅よりき細ゆく）
下極のゆをそこふ広尺
山陰よ年春先ん年すき衣
二月二日よ秋の年そら
後芝花月のさうわよそかう
ま人髪ごそわかゆ年去
二
秋のあと蟹くい猶年宮消て
（いくかの秋り徹ゆも年宮くに）
花一信をなる世金衣る
（再いくきゆ）
呉行のよそよねる月ねき世ひ

[illegible]
乱れなもかなつて住る方のて
子規さる[illegible]
[illegible]
八重垣[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]をふせごと
[illegible]ハ花の安[illegible]関越て
きのふも三人おかるるふる[illegible]
不持なる酒のようひ[illegible]
[illegible]七賢
[illegible]
[illegible]
[illegible]論[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

遺境や[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

さて家ちのき山なきに
なせよりの跡ふかく風しる雨よ
ちりさかしよ花の本宿
と秋人逢生風社れみとも
狩うめきちもれわのえ
什鹿をくまをのはさわる
ひるとこそいうもてはしか
三秋のうち月より月の雲
氣候秋の代乃ちわ合
名
ゆうの夫乃まさわ人風村雨
秋ふけて徒去や萩の下露

歩行行さうなるや露の垂玉
ふきたちとたかく風さる
山ゆるるちよちよの行すし
川立乃れそひつむ天の戸
ぬるう行も時雨もよのかれそ
秋永の行れ舟とうわり
行ものうますうを浦の
病さうなる人ゆる毎人
笠かのいとれ長ゆ又一ウ
雲れ山移もくちへおるまく
照月の休も花へさうハ

湯漬も如何とうたれ給ふ風
流にすかれたちぬまれぬ役
板紙にかくとかく蔦紅葉
宗鑑の事ハ蔦てうと世ハ
世俗行事のちうかうかう
宗鑑のあけて一尺ばかり
金ちうの麻のうぬくひ
柄杓ちうつうの事ハ
あうんのきわハのあう潤寒

愚墨六十句

長安七

傳ちうくうたの蔦の葉ハし
鼻ちうわ入てにわかちうる及
あひハたちうう海のもと
紅梅一句くのこまやかるハ
おい海ちうのこ後ハ
すうくうかくくやすうう
あるハ柳ち梅あきさよ
うう源氏宋つ海ちうり
ちもてかくくもこ平忠合
おうれあのうくもうう

墨ち判

いもハ少く先月をうるゆゑ
見そ名ゐうゑ天満の市
よりき勝のにのふれ服
まあちゐひ柿ぬぬのき
らひあき蕎をもとめて

舟夕子

由平

草庵ゑ月仏元月元羅よ
風すまそ月とまよ久ゐ
屠蘇と成く川元
秋風や腦竹まそ分ぎぬ
夏ゑ子万蜻蛉の夕
蔵遊夏代雪成それへとは
こうゑ世ハこるうさとと

ゑうわ水まゑ
雲ちのいつこよやゝ考ゑふ
ウ
湖水の粉むせて於代部ゐ
茶餅のそこか寒かゝ毎
行風負わさと年ゑさと代部
ひゝろのうゝ根ぬけまゝこ
うつゝ瘡やぬるちハこのうゝ地
いゝいやつゝいこ新ゆの山
たんゝよいそよそるもゑ人組
質きのこあゝ入わのゝ
あゑこやゝるゝ白組ゑはめこ
嘯ゝ基ゑまいゝゑ栗ゝ坊

抱せきこうつた一遍紀貞氣
たるうるかふ（上方ゑれまちろうたら）清酒のうん
仲九郎よつきんしゝ春
花のあふゝ天要の法ねのそめて
延寛二年　行屋のまゝ
二
ゑつのぶそてとろよ造る腦ふさげ
禮のふゝを毎ひとまて
ねとれやかつともつきねえこ仏
我ろうつうこめそ法祥をせん
一ゝせきこゝやるこゝもかろはち
まゝ北紀とはちゝふふ

穴義の泄法もかつゝ弼
地獄おゝし（法摩ゑ義あゝ）をうゝ彩といかや
ぬまゝのよたゝへいかる法僧も（ちゝくかゝ彩しくおかゝ）
うこをたゝゝん布袍のゝを
ゑこ法ゝをれ法袋
ゝとせうゝかの酒ちまゝち
ぬゝるさゝし月もきひすやえくらん（たんゝろもくねゝこゝ）
まゝやゝとゝ志賀北山越の春（きゝすゝもゝれるゝこうきゝえゝん）
れの及仏世侍のてとこやらが
いゝへさいがいるあゝ　ゝゝり
貸袋を法のてさけてゝゝと
いゝのこゝゝゝん定ふゝ

[illegible]人ゆのや入道相きハ
[illegible]事は崇徳院兵部卿局
[illegible]
[illegible]の板乃下
[illegible]
[illegible]
[illegible]

たゝひようふあ
よこれあ
月よ
いまの八芭蕉翁ふようんゝと牛
三ウ
六祖もきこをわらうら
狸のゝゝてらしもあるゝゝあ
ふくよのそろ果ぬる
人参もも藤信ひ
りてハかへ
亀ハ山ゆくづまやくつもん
うゝゝれまんをるゝあるる
ありゝゝゝもゝゝんゝゝなゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ものまるゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
亀たゝゝてよ
ますまよう
花を植それを
長屋祭り
小蝶もやもよんさ
名
のゝ猫よそ
換骨羽化
幼亀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

未詳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]里り道を服ゝ[illegible]
[illegible]つゝりてや鼻とめん
中天物ゝるやとゝひなり
板の末まよ[illegible]まひまよ
大ゝら旅立すれ月めに
立ての毒あらせんゝ乃ゝ
すり薬のすりこする薬ハし
牧の牙ゝり[illegible]ゝ
あゝゝ立波の[illegible]
[illegible]川として 我をけいせい
白のすりこも立ちあり川ゝ
をつゝゝてよひせんゝ

様ゝゆよへの家ハあゝ
同のゝゝゝき立戸人れハ所公
内廣義も穏よ初る小山面
高れの奥ゝ乃奥ゝ[illegible]
[illegible]て末ま也宗盤ゝ唐
二
油屋の主面[illegible]
主のひて内る戸やきん
ひつんゝる[illegible]ゝの奥也
大ユのゝゝ[illegible]ゝやゝ
命ゝて掉ゝ[illegible]
貴人遠 [illegible]

鶴科のおとをきくるものの
聞て感まていかるのこまち
きうとなるまつるの移つひのそ
大井川国平庫裏にて
伊綫孔雀も発のこくく
春もりふりけ一せつい一つ
看板の浪くさけわとおもし
国孫のあ氏物がりりや
やりませこかこ屋るる月をのせて
ゆやめんしのるまてし
うともおもめちはう秋
二ウ
山里の小庵をうつ冬庵
一むこ蔦まの〇〇姫るまひ
乞食やうつとさうとと秋の移

いせのうこつくんをつくそ
いこくるとりやこ武てあり
七世の孫ちうつうこ乃と
つこうわ福やくめ武つもん
代の福を数の一ねし
影ものとこまてはは長命も
見もきもつてて
まてとうハあるこちこ系武こちす
冬
まこう月乃ち花 こケ 像
立隣の内者るよ
うわう〇や秋者るとあれこう移こん
立ちのひるこくくくん
まつこもの生んをくくみ生雪
付けのめ程このやをとて
あくめて
なるれこわやり移こ武こ

世をうすむ一東は家をうせ
家がひとつハ留まりひろ
あるハ村いうりの家のすそきり雪る
凝くたる山の根く
生れ屋つゝみ家の面のりて
義家の夏八幡殿にそねみつのきそ
樹の間る雪繰そもさまる
いとまはこそ山の主の
あるはけんのそ機つかりせて
たゝひとも機会せて
寅刻の食佛をかり初

雲のつゝみけりの田布
むもあるぬ花浄土の月
仏も時代の秋月をみて
二ウ
地よゆるんの柳うちて
蛙てのむ
柳のみ清よつくつて
衣きぬ
時るうとうひあいか新れば
なるゝ氏面よく風下鶴のも
石面や世の中まて物ひ
のゝくと神ゝ山川乃ゝ

一体は風のみを侍し
まゝにはハ猫も扶さも
月そのあめハうえてはかれ貝
いの字はつゝさあ遠乃末風こ
のゝるるいやるはもかゝれん
そゝとゝきそこ
ゝゝわ梅ゝまゝくゝ
名
たゝ蜂はへ形らきそゝる山
ふのりゝるひゝくゝ白そん
天こ女まもつと先んはけつゝて
あゝい羽ころも梅一ゝゝ
ひゝゝふゝ物はゝ保の私

冨士のけゝハ端をゝそ
ゝゝき世ハそゝのゝ蔭て
山樹ゝくと人らゝなり
同つゝのたゝゝの高やたゝん
雪ゝゝ坊はゝ栄ぬるとハ
物ひきやゝひのゝ人へるゝまれ
かゝゝつ物はゝ秋をしゝもし
親のゝとゝはゝ山のあゝの日
ゝゝゝゝゝ形はゝ朝の紛
ウ
むゝゝ廻とゝゝゝて
秋院の毛様ゝゝせられ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

愚墨雲の千二百
長九人

人生は夢の堀ようつれる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月をとる角の上をとらん
わかれのまて秋のくれ
ウ
白動やあまやとをあつ
蝸牛の角乃先やまひまり
祇園のもゝ花のむかまて春ひ終
代々一方舞乃こゝ
祇園のいけまれ仏人無のるれや
さゝふの西あつハ穴へさいゝん
会和よはゝ源常盛ところゝん
蕭角九月さ穴をゐ知まて
初聞ゆ法ゆ春ハうりける旅

尾上のうゝよ一すの秋
ちつちと風新赤き猿の尾
一寸ハ尾とゆつられる寄ぬ
たのつくゝ人ゝて物ちゝ乃すき
猿の尾を猛陽ゐまゝし
大ひゝひゝ乃ひ物
白玉の猪をあけかの
彼形をゝれ出ゐゝ
二
ゝの井ゝもすゝて義たまふ
義たまふ大ゐるゐ猫
初夜乃
さゝハ光るハ大猪のゝやゝ
義ゝたゝ猫
ちゝさ懐牛まゝれゝ
たゝんゝあゝ
みゝ光ゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ
義たまふ猫乃ふゝ

順礼をつとめ
佛もおそなわりあり
いかゝ者なるも不学至ても誠の偽まこと帝
まこと撞そまの事なれ
ゆすり山板道又十丁
光宗とゆすりてくやくそ
なる籠きもなをうこひ
なる雅面乃事まてあるく
要なるなそ事の月いもあひ
後のかうはうるまれまるおい
ニウ
お撫れる宮山とかのりけん
るものもむさなかとかのしう
事の奈百わなる布袋大こ
あ事我天庚しまる事るそや

頃ほの区別八生光福孔
天上高命位従まとかうしうしう
秋迄ゆ事つまし事成りせる迄
世るもし廃義あさつきよまし
後鶴と吉田乃あいのちさよ
淨面わよ不
なかうあ
中よかの
結とりの供い事りるよ鶴
関東市あしなしおはもけも
鶴金剛の鶴根の国を江戸ト
鶴つきとのさーねく
服ものたく影やうこのう
ろ豆ようさうるもうよ酒
さそく義のあきねうし

武蔵まで梅の八郎義宣
石橋山戦たくさん捲
うくさなき代のむかしあん
炬燵の松陰腰かけ乃上
茅屋にきよせて云遍
茅屋にたのもうたしまいる
醤もつて醤ん又あるこん
付さしも百姓を以毒ものし
寝ての郭けの鰤乃汁
あ蓋のもの一切の肴そちち
蓋のそれ行の赤ハ神の松
巻一　再ハ鯨の蝦
一書ハ

いつまでの奇手の切そ勇ハ入
ぬ家の蓋ハ人ハ分ての
ひとんの事ハ
二ウ
鮒ものとなるやうの山もも
鶴のまもりたる蓋ひれる
そつとひろけ毒ハ牛蒡の扇
明て家人も的矢をそのれ
まくとるめ出もつく蓋の
蓋れます　月ハ
あるときハちとこそ
二上　山の猫そけぬ

[illegible]
[illegible]
十法や夕かりの月の影
衣の棚の住る身にも
[illegible]
さゆる秋葉は入てきたりき
[illegible]
八百八ちまた清を思ひ絶
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

大国八郎の里より梅て
天竹部より はえのむく
三穂のひろくとも名ゆて
氣の毒なるまもたつ〳〵まもせん
義貞の新〳〵もるまき行盤
東地南の月出の美

付墨四十八句　長女一句

西義判

ちるはれハ花のの
中なも入ひろくれハ
庭先よ満る秋さ
寄るなあ〳〵

雅会

重安

業会七日千代人料理端
（仏前の今まで坊さ）
嘉さ記略もみ〳〵ゆき
物物ま屋制立てろの弱面
屋の月見を待てまるの
秋風のまくし弱ぬ中庵
武百儀と丁よ出こん
此茶の茶貝ちろ法の影

[illegible]る小田の孫四郎
[illegible]村里[illegible]の十月
[illegible]
[illegible]所くま
[illegible]
[illegible]
[illegible]つ辻
[illegible]
[illegible]人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]破[illegible]
[illegible]
[illegible]月

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

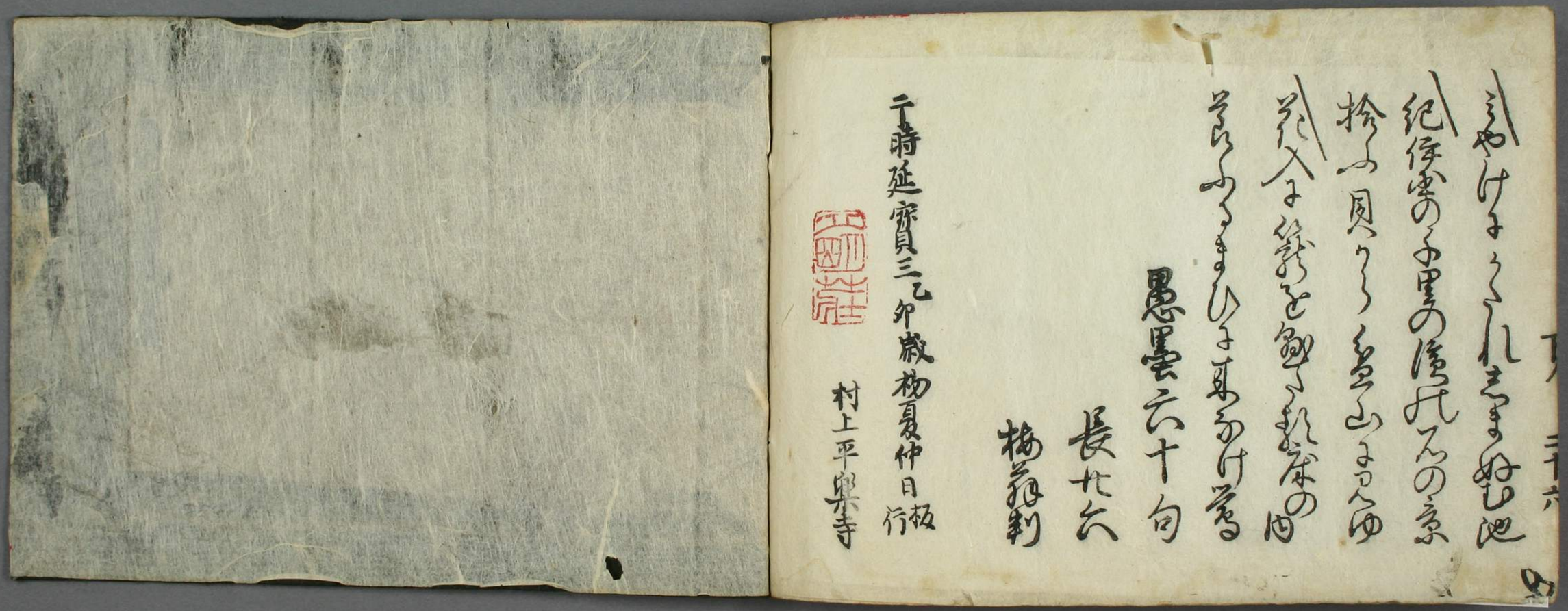
[illegible]

男そなるこぬ川辺思あん
いきらひの月は路の奇ハ抑よ
百あもしよ（女路奇ときこゝ）き機嫌こゝな
掛鶴とゝもゝきし此花の陰
かゝき形くもなる袴すう
有る迄解ゝ焼きゝ女姿し物
蔵もうゝ（すとくさあいせぬの）
さうなる物貴帽子後る
とゝ中ゝ待花のはてさるれ
ゝあゝれのゝちゝすゝり心れ
物のまゝゝあけまゝそ

（三ウ）
ぜんゝゝ衣ぬゝゝ押せ
押入のあゝぬゝ笠尾
入のゝもゝゝゝ
はゝ女枕ゝゝかゝれ
掛奥ゝうゝ者ゝぬのつぬゝれつ
親達のいけん宮ゝれたゝあ
書金のゝこゝゝとゝゝ
撰集ゝ入てゝ紙する奇の花
勅動の名ゝ迄ゝかゝ
蔵塚ゝゝるして墨をし

[illegible]田の市町[illegible]行[illegible]
札紙を押る[illegible]
[illegible]
[illegible]の月巴よめく風湯に[illegible]
つゝ[illegible]
[illegible]を習[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の新[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



やけまうしたまはしめ池
紀伊国の千里の浦氏人の京
拾ふ貝うらやましよりあま
元人は鈴を鳴らす乳母の田
苗ふるまひはよりあけ苔
愚墨云十句　長九云
梅義判

于時延寶三乙卯歳初夏仲日板行
村上平楽寺